

Eastspring Asia Now

Vol.3 インド現地レポート 高額紙幣廃止後の状況

eastspring
investments

紙幣刷新の混乱は収束 ムンバイのマーケットは今日も熱かった

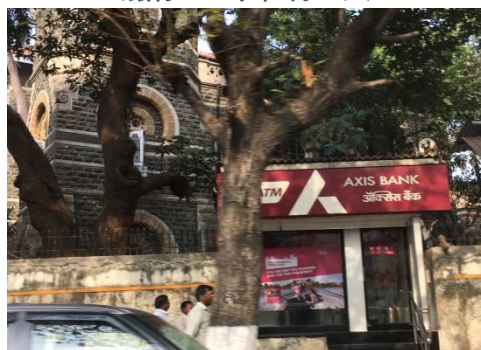
2月中旬、弊社社員がインドのムンバイを視察しました。本レポートでは、高額紙幣刷新後のインド現地の様子を報告いたします。

- ▶ 2月15日、インド出張のためムンバイにあるチャトラパティ・シヴァージー国際空港に到着。インドルピーは国外持ち出し規制もあり日本での両替は困難であるため、インドルピーの所持金はゼロ。昨年11月の高額紙幣廃止で現金の流通に支障が出ていると聞いていたので心配をしていましたが、交換レートへの不満はあるが、何の問題もなく空港内の両替所で新紙幣の2000ルピーと500ルピーに両替することができました。(交換レート:1ルピー = 2円。「高いね」と言うと、「どこで両替しても同じだよ」と言われ両替。本当だったのかな?)
- ▶ 弊社グループのインドにおける運用会社(ICICIAM)の同僚に高額紙幣廃止による混乱や影響を聞いても、「それはもう過去の話」という返事で、時間の流れがゆったりとしたインドでも終わった話のようです。高額紙幣廃止によって非公式経済(informal economy、統計に表れない経済。インドではGDPの30%とも言われている)の公式経済への転換や、所得税の微税率アップ(同僚によればインドで所得税の申告をしている人数は全人口の3%程度とのこと)など、むしろポジティブに捉えていました。
- ▶ 確かに、高額紙幣廃止直後は銀行に長蛇の列ができ、昨年12月はATMに“No Cash”の張り紙がありました。今回、ムンバイ市内の銀行ATMに並んでいる人はいませんでした。
- ▶ 現金供給は約10兆ルピーとなり、銀行ではなく商店に並ぶ人々で町は賑わいを取り戻している様子でした。

<銀行に並ぶ人々 昨年11月>



<銀行ATM今年2月15日>



(写真: イーストスプリング・インベストメンツ社員 撮影)

<賑わうムンバイのマーケット>



(写真: イーストスプリング・インベストメンツ社員 撮影)

グジャラート州名物「テプラ」

インドのパンといえば、チャパティやナンが有名ですが、グジャラート州の名物の一つに「テプラ」があります。全粒粉にヒヨコ豆の粉末、ターメリックや赤唐辛子粉といったスパイスなどを練り込んで焼いた無発酵の薄焼きパンで、現地では日常食であるとともに、旅行に携行したりもする家庭の味とのこと。食べてみて、「うん、ビールのおつまみに最高!」と思いましたが、よく考えると、グジャラートはインド唯一の禁酒州。禁酒州におつまみにぴったりのテプラ。なかなか奥が深いものです。



※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社は関係がありません。